媒体名	朝日新聞	版／面	13版s／21面	掲載日	2021年8月3日（火）

必修の留学 オンラインで代替

コロナ下 広がる単位認定

施設で2週間英語漬け ■ 提携先学生と交流探る

新型コロナウイルスの世界的流行で昨年以降、「留学必修」をうたう大学の学生たちが渡航できない事態が生じた。代わりに、日本にいながら海外大の授業を受ける「オンライン留学」で単位を認める試みが広がっている。一方、ワクチン接種が進み、渡航再開に向けた動きも少しずつ見えてきた。

パソコンの画面に中東戦争やオスロ合意などの写真や動画が流れる。日本人学生が見つめる画面の向こうから、イスラエルの国立ヘブライ大の教員が中東の歴史を英語で説明した――。

このオンライン授業を受けていたのは、神田外語大（千葉市）に今春できたグローバル・リベラルアーツ学部の学生53人。6月下旬からリトアニア、イスラエル、インド、マレーシアの大学に1週間ずつオンラインで「留学」した。

同学部は全員が1年生の6～7月に、この4カ国の大学のいずれかに3週間留学するのが「売り」。今年は「貧困と格差」「戦争と平和」「宗教と民族」といったテーマを学ぶはずだったが、コロナ禍で渡航が不可能に。代わりに全員が4カ国の大学のオンライン授業を受ける形に変更した。

前半の2週間は、学生を福島県にある関連研修施設に「缶詰め」にした。職員も多くが外国人で、滞在中は英語漬けに。留学がかなわないなか、英語でのコミュニケーションから逃れられない環境をつくったという。

学生は手応えを感じているようだ。長門航さん(20)は「授業も生活も英語なので、聞いたり話したりすることに慣れた」と話した。

コロナ禍により、交流協定を結ぶ大学間で学生を相互に派遣する交換留学の多くは、事実上中止となった。神田外語大のように留学を必修としている大学では、代替措置として「オンライン留学」を採り入れているところもある。

2年次に1年間の留学を義務づける関西大外国語学部。提携先の海外14大学が授業をオンラインでも開講し、学生は自宅から参加する。教材は専用システムでダウンロードする。時差のある国では日本時間の夕方に授業が始まり、深夜まで受講する人もいる。

国際教養大（秋田市）は、提携校のオンライン授業を受けるか、企業のインターンシップと提携校の公開オンライン講座を組み合わせて受講すれば単位を認定する。

ただ、留学の醍醐味でもある現地での生活体験や、学生らとの交流はかなわない。そのなかでも関西大では、提携校の学生が「バディ」として相談などの相手になる。竹内理・外国語学部長は「リモート留学でも満足してもらうにはどうしたらいいか、工夫が大変だ」と話す。

（桑原紀彦、編集委員・増谷文生）

右イスラエル・ヘブライ大学の教員によるオンライン授業の画面 左ヘブライ大のオンライン授業を受ける神田外語大の学生たち＝いずれも2021年7月7日、福島県天栄村、増谷文生撮影

許諾番号：21－2656

※無断での複製・転載を禁じます